

---

## 新装版はしがきに代えて

『萱野茂のアイヌ語辞典』の初版は1996年7月10日、増補版は2002年10月10日に発行された。そして今回、2026年に、増補版の装丁を変え、新装版として発行される。父・萱野茂は、初版の辞典を出す前に「現在あるアイヌ語辞典は50年以上前に出された、ジョン・バチラーの『アイヌ・英・和辞典』しかない。日本のアイヌ語学者は何をしているのか。学者が作らないのであれば自分が作る」と言って辞典作りに取り組みはじめ、1996年に遂に完成した。

2026年6月15日が父・萱野茂の生誕100年となる。2024年に三省堂の手塚楓さんから『萱野茂のアイヌ語辞典』の中からいくつかの語彙を選び、コンパクトなアイヌ語辞典を作りたい」という旨のEメールが届いた。私は「同辞典は絶版になっても、当資料館へ年に10件以上の問い合わせがあり、現在でも需要があるので、コンパクトなアイヌ語辞典ではなく、『萱野茂のアイヌ語辞典』をそのまま是非再版してほしい」と返信した。すると、2025年8月に手塚楓さんと佐野文絵さんの二人が「萱野茂二風谷アイヌ資料館」を訪れて打ち合わせを行い、2026年6月に新装版として再版することが決定した。表紙装丁の参考用として、当館で展示している着物の写真を撮影するなどもした。

本辞典の特徴の一つは、豊富な用例が掲載されていることだ。なおかつ、萱野茂自身の体験談がアイヌ語で記され、生きたアイヌ語として活用できる。この豊富な用例は、他のアイヌ語辞書の追随を許さない。

私の好きなアイヌ語のフレーズがある。「カント オロ ワ ヤク サク ノ ア・ランケブ シネブ カ イサム。」(天から役目なしに降ろされた物はひとつもない)だ。

逆に考えると、天から降ろされた物にはすべて役目がある、ということだ。これは含蓄のある言葉だと思う。毒ヘビや毒草にも役目があるのだ。実際それらの毒を薄めると、薬として利用できる。

本文をもって新装版はしがきに代えたい。

2026年1月20日

萱野茂二風谷アイヌ資料館  
館長 萱野志朗

---

## 初版のためのはしがき

アイヌの言葉はアイヌ民族の心であって民族の存在の証である。その言葉が消え去ることなく継承・発展してほしい。それが、アイヌである私をしてこの辞書を執筆させた最大の理由である。

思えばアイヌ民族として生を受けて70年、アイヌであることから一度逃避した私が、ふたたびアイヌに戻り、アイヌの民具の収集と制作にかかわって45年を迎える。

北海道平取町立の「二風谷アイヌ文化博物館」の展示物と私が個人で経営する「二風谷アイヌ資料館」の2館分の展示物を、自分ひとりで収集・制作したことを心密かに誇りに思っている。

昭和35年2月から始めたアイヌ語の録音も平成8年現在、六百数十時間に達し、その音声資料の中から書かせてもらった本が約30冊、北海道教育委員会が長年取り組んでいる金成まつ筆録・萱野茂訳ユカラ集も18冊目が出た。

昭和55年頃だったと思うが、それまで集めた筆録資料・音声資料を基に、「アイヌ語辞典を書きたいのだが」と、あるアイヌ関係の学者に相談すると、その方が言われたのは、「アイヌ語を覚えているからといって“辞書”を書けるというものではない」と、言下に否定された。

言葉を知っていても素人では書けないものが“辞書”というものかと、出鼻をくじかれた思いをし、その後数年の歳月が流れた。しかし、和人アイヌ語学者が辞書を書く気配は全く聞こえてこなかった。

そうこうしているうちに、私の話を聞いた武蔵野美術大学の相澤韶男教授（民俗学）が、「アイヌ語辞典はぜひ必要だ。これならトヨタ財団の助成金を受けられる可能性がある」と、教えてくださった。そこで、相澤教授に共同研究者になっていただき、トヨタ財団への助成申請の書類を提出すると、学術調査研究費という名目で助成が決定したのが平成元年であった。助成金で、収集したアイヌ語のリストを整理するためにパソコンを買い、本格的な作業がはじまったが、最初は試行錯誤の繰り返しであった。

平成4年の暮れだったと思う。平凡社の当時社長であった、下中邦彦氏がふらりと私の家を訪ねられ、「萱野さん、噂によるとアイヌ語辞典を計画されていると聞いたが、その後どうなっているんですか」と言われた。私は「はい、少しでも、ひと言でも多く入れようと日夜頑張っているところです」と答えた。私の返事を聞いた下中社長は、「萱野さん、私は長年出版の仕事をしてきた者として言わせてもらおうが、辞書というものは足し算ですよ。まず出版すること、足りない分は出してから足していくこと、足し算の基を作りなさい。あなたがこれから若くなるわけでもないし、利口になるわけでもないでしょう」と、激励して下さったことが忘れられない。

辞書は足し算、その言葉に触発され、それからの4か月、来客もなるべく断り、私が書いた原稿をパソコンに入れるのが助手の米田優子さんの役目、疑問があると納得のいくまでふ

---

たりで話し合いを重ねた。

そして、平成5年の春を迎え、見出し項目を約8000に整理し、第1次稿ともいべき項目原稿607枚、例文原稿715枚、合計1322枚分を出版社に持ち込むことができた。

1日も早く出版したかったが、やはり辞書は簡単にはできない。出版社の編集者との内容整理にあたっての対応がまた大変であった。その後3年が経過して今を迎える。

今、この本が完成するにあたって、ここに改めて記さなければならないことがある。

山育ちの私は、海の魚の名前をあまり知らない。したがって、この本を作るにあたって、長万部アイヌに拠る魚の名を参考にした以外は参考文献はまったくない。文字どおり『萱野茂のアイヌ語辞典』であり、少年時代に母語としていた言葉を網羅したものがこの本である。

したがって、この本は言語学者による辞書ではない。少年時代の生活語、すなわち「母語として使っていたアイヌがつくったアイヌ語辞典」であって、専門の方々からのご批判をお受けしたい。

そして、私がアイヌの生活様式の資料収集や民具づくりにも努めたことから、それらを相澤教授のご協力をえて図版を描き起こしていただき関係項目に挿入することができた。その結果、この辞書がそれなりの価値を高めることができたと自負している。

この本の出版に向けて多くの方々のご協力をいただいた。

初期の段階で経費の面で行き詰まっていた時に助成して下さったトヨタ財団、その時を含めて終始面倒を見ていただいた相澤韶男教授、いつも私の側にいて厄介なパソコン入力や校正作業に尽力された米田優子さん、終始温かい激励をいただいた民族文化映像研究所所長の姫田忠義氏にはお礼の言葉もない。

また、辞書の三省堂に引き合わせ、初期の段階から多くのアドバイスをしてくれた同社編集部員の阿部和幸氏、編集実務の指揮をされた同社取締役事典担当出版部長の佐塚英樹氏、編集実務を担当された青木一平氏に心からお礼を申しあげる。

はしがきを書く心境は、お産でいうと陣痛が始まった時と同じようなもので、生まれ出る我が子が五体満足であれかしと願う親心である。

アイヌが書いたアイヌ語辞典を多くの人々に利用していただきたい。足し算の基がようやくできたと思っている。これから弛まない足し算を続けていくためにも、多くの読者のご鞭撻をお願いしたい。

アイヌ民族が自分たちの言葉を手元に引き寄せることができ、アイヌ語を全く知らない初心者の方々に、この1冊がアイヌ語とアイヌ民族の文化を知る端緒となることが私の願いである。

平成8(1996)年5月

萱野 茂

## 凡 例

### ●表記の原則

カタカナ表記を中心としていますが見出し語にはローマ字表記を併記しました。カナとローマ字は次のように対応しています。

ア	a	イ	i	ウ	u	エ	e	オ	o
カ	ka	キ	ki	ク	ku	ケ	ke	コ	ko
サ	sa	シ	si	ス	su	セ	se	ソ	so
タ	ta			ド	tu	テ	te	ト	to
チャ	ca	チ	ci	チュ	cu	チェ	ce	チョ	co
ナ	na	ニ	ni	ヌ	nu	ネ	ne	ノ	no
ハ	ha	ヒ	hi	フ	hu	ヘ	he	ホ	ho
パ	pa	ピ	pi	プ	pu	ペ	pe	ポ	po
マ	ma	ミ	mi	ム	mu	メ	me	モ	mo
ヤ	ya			ユ	yu	イエ	ye	ヨ	yo
ラ	ra	リ	ri	ル	ru	レ	re	ロ	ro
ワ	wa					ウェ	we	ウォ	wo

ド (tu) は、英語のトゥデー todayのトゥと同じ発音で、他のアイヌ語の文献ではトゥと表記される場合があります。

この他、日本語の「はねる音」や「つまる音」のような発音（閉音節＝母音をともなわず子音だけで終わる音節）を表す場合には、小文字でフ、ツ、ク、シ、ムと表記しています。それぞれ、p, t, k, s, m に対応しますが、-pp-, -kk-, -ss-のように、同じ子音が続く場合は、ッで表記しています。また、小文字のラ、リ、ル、レ、ロは、全て母音をともなわないrに対応しますが、直前の文字がア段ならば、ラ、イ段ならばリというふうに表記しています。

ム直後にマ行音かバ行音が続く場合は、ンと表記しています。ローマ字表記においては、mとnは区別していますが、語源が不明な場合は、mで表記しています。例えば、アンパ「持つ（複数）」は、単数形アニ【ani】との関係から【anpa】と表記し、フンベ「鯨」は語源が不明なので【humpe】と表記しています。

イ段の音の後に、アクセントのないウが続く場合は、ニュー (niw)、ピュー (piw)、などのように表記しています。

### ●カナ見出し

見出し語はカタカナ表記で、日本語のアイウエオ順に並べています。

ドは、トイルド～ドンプートエシニューカのように、トイ～トエ-の間に並べています。

バ行文字は対応するハ行文字と同じ扱いで並べています。

フ、ク、シなどの小文字は対応する大文字と同じ扱いで並べています。ただし大文字、小文字の違う同形表記の語は、大小の順で並べています。

カナ見出しは、単語だけでなくひとまとまりの表現になっていることがあります。そのような場合はローマ字見出しを参照してください。

### ●ローマ字見出し

カナ見出し語の後の【 】内に表示し、単語に含まれる意味の区切りに従って - (ハイフン) で分けています。また、実際の発音と語源に基づいて類推される形とが大きく異なる場合は、語源を表す記号としてくを用いました。

ローマ字見出しの中でスペースで区切られている語は、原則として見出し語として記載されていますが、単独の見出し語として立項されていない場合があります。

### ●人称接辞

アイヌ語では、「私(たち)が」「私(たち)を」「私(たち)に」、「あなた(たち)が」「あなた(たち)を」「あなた(たち)に」が動作と結びつく場合、必ずそれを明示する必要があります。また名詞についても「私(たち)の」「あなた(たち)の」ということを示す場合があります。このような働きを持つ言葉を人称接辞と呼びますが、本辞典においては人称接辞を示す記号として、例文のカナ表記中では・(中黒)を、ローマ字見出し中では=(ダブルハイフン)を用いています。例えば、口語文で「私が」を示す人称接辞は、例文中ではク・、ローマ字見出しでは【ku=】と表記しています。ただしカナ見出しには・は使っていません。

### ●概念形と所属形

アイヌ語には例えば、「目というものは…」などのように目そのものをさす場合のシット、「私の目」のように誰か特定の人の目を表す場合のシキ(あるいはシキヒ)という2種類の形を持つ単語があります。前者は概念形、後者は所属形と呼びますが、本辞典ではこのような形を持つ言葉の見出しを、概念形/所属形として表記しました。例：シク/シキ(ヒ)【sik/siki(hi)】

ただし、一般的によく使われる語について概念形と所属形を並記したにすぎず、並記されていない語が必ずしも所属形をもたないというわけではありません。

### ●単語の発音が変わる場合

①五十音のイ段の音の後にア行の音が続く場合、ア行の音がヤ、ユ、イエ、ヨと変化し、ウ段の音の後にア行の音が続く場合には、ワ、ウェ、ウォと変化することがあります。このようにYやWの音が母音と母音の間に入ることを「わたり」といいますが、「わたり」の有無によって意味が変化することはありません。

本辞典においては、カナ表記では「わたり」を入れていますが、ローマ字見出しの中では表記していません。例：イヨマンテ【i-oman-te】

②ある音の直後に、ある特定の音が続くと、どちらかの音が変わることがあり、これを「音素交替」といいます。本辞典では、カナ表記では「音素交替」によって変化した音、つまり耳で聞こえた音に近い表記にしますが、ローマ字見出し中では、「音素交替」していない形で表記しています。

③子音で終わっている語の後に母音で始まる語が続くと、全体でひとつの音節を作ることがあります。その場合、カナ見出しではひと続きの語のように表記していますが、ローマ字見出し中ではスペースで区切りました。また、例文の中ではその直後の( )で単語ごとの区切りを示しました。例：アナナイネ(アン・アン アイネ)

### ●訳語

訳語は、そのアイヌ語について著者が日常使っている日本語訳を記し、同意の言い換え語も並列しました。また微妙なニュアンスを伝えるために、北海道方言も使われています。

---

訳語のより詳しい説明，単独では意味がわかりにくいものやその物の材質などは，訳語に：（コロン）を続けて注釈を加えました。

複数の意味をもつ語は，①②③の形で示してあります。

●語源

特に語源にさかのぼって考えた方がよいと思われる語については，▷の後に記してあります。

●用例

用例は，著者が母語として使用し，伝聞・記憶していたものだけを記し，日本語訳を加えてあります。ただし，用例中に [ユ] [ウ] と示してあるものは，ユカラ，ウエペケレ中によく見られる表現であることを意味しています。

●付帯説明

その語の背景にあるもの，その語が実際に使われた時の状況，またその言葉に関する著者の思い出などを，用例の後に\*で示しました。

●その他

- ・アクセントおよび品詞については記していません。
- ・図版中の名称語に一部本文と表記の異なるものがあります。

\*参考文献

- 木下虎一郎『北海道長萬部アイヌの水産動物の呼称』昭和9年  
北海道教育委員会『アイヌ民族文化財ユーカーシリーズ』Ⅰ～ⅩⅧ 昭和53年度～平成7年度  
萱野茂『ウエペケレ集大成』（アルドオ）昭和49年  
同『炎の馬』（すずさわ書店）昭和52年  
同『アイヌの民具』（すずさわ書店）昭和53年  
同『ひとつぶのサッチポロ』（平凡社）昭和54年  
同『カムイユカラと昔話』（小学館）昭和63年  
（一部再録）  
『世界なぞなぞ大事典』（大修館書店）昭和59年  
『世界ことわざ大事典』（大修館書店）平成7年

## カ

## カ【ka】

シラミの卵。

## カ／カ(ハ)【ka/ka (ha)】

(編む)糸: at (オヒョウニレ)の皮, nipes (シナの皮)から作る。

## カ【ka】

(糸で作った)罌。

## カ／カシ(ケ)【ka/kasi (ke)】

(〜)上, 上辺

## カ【ka】

よ。イテキ カ=だめよ。

## カ【ka】

も, ~でも。ポン ヒケ カ コロ ワ アラパ=小さいほうでも持って行け。

## カ アヌ【ka anu】

罌をかける。オサツ ポンノ エ・ドラシ ポンニナラク タ イセボカ カヌ (ク・アヌ) ワケツ (ク・エツ) ア ナ ニサツタ クンネイワ カ ノンカラ ワ エツ アニー=オサツの沢を少しのぼって行って小さい台地にウサギのわなを置いて来たので, 明日の朝罌を見に行って来てくれ。

## カイ【kay】

折れる。イテセアニタ (イテセ・アン ヒタ) キナ カワウセ コロ カイ ペ ネ クス アラスイネ ウォロ ア・クシテ ア・テイネカ コロ ピリカ ヲ ネ ワ=ごぎを編む時にガマ草が乾いていると折れるものだから, 1回だけさっと水の中をくぐらせ濡らすといいいものだ。ペトルン (ペッオロウン) ベウタンケ ハウ ア・ヌ ヒクス ウンマ ア・オヒネ イカオパシアナクス (イカオパシ・アン アクス) ウンマイカ・アン ア・テケヘ カイ。タノ ア・イエ クニ イイエマウコウエン ネワ=川の方へ危急を知らせる叫び声があったので, 馬に乗って駆けつけると馬から落ちて私の腕が折れた。これのことを巻き添えを食うというのだよ。イセボカ ア・カラ ヒ タ ヘビタニ ネ ア・カラ チクニ アナクネ チキシニ イヨツタ ピリカ ヲ ネ。ア・エネネ ヤツカ カイ ニューケシ ペ ネ=ウサギの罌をしかける時にばね木に作る木はアカダモが一番いいものだ。曲げても折れにくいものだ。フシコク ア・レウエ ヒ タ イテキ ルイノ ア・レウエ ヲ ネ。ルイノ ア・レウエ コロ

ク カイ ペ ネ ナ=古い弓を曲げる時にあまり強く曲げるものではない。強く曲げると弓が折れるものだ。

## カイ【kay】

背負う, 負う, おぶる。エ・アキヒ チシ ナ イイエオマツ コロ ワ エツ カイ ワ ソイネ=お前の弟が泣くからおぶい紐を持って来ておぶって外へ出る。ポンベ チシ ワク・コヤイウエンヌカラ ナ ウヌフ エウン カイ ワ アラパ=赤ちゃんが泣いてどうしようもないので, 母親の所へおぶって行け。

## カイエ【kaye】

折る。カイクマ カイエ=柴を折る。

## カイカイ【kay-kay】

波, さざなみ。

## カイクマ【kaykuma】

柴, 薪: おとなの指より太い柴薪。膝にあてて両方の手で引っ張って折れるくらいのものまでを言う。

## カイクマ【kaykuma】

ウサギ: 勇弘郡穂別地方その他で, チ・コロコタン タ アナクネ イセボ セコロ ア・イエ ヲ ネ コロカ ムカ ホントモ タ アンコタン タ アナクネ カイクマ セコロ ア・ポロセ ヲ ネ=私たちの村ではウサギをイセボと言うけれど鶴川という川の中ほどの村ではカイクマと言う (表現する) のだよ。

## カイクマテレケ【kaykuma-terke】

白波, 三角波。

▷カイクマ=ウサギ テレケ=跳ぶ→白いウサギが跳んだように見える波

## カイセイ【kaysey】

死骨, 屍。

## カイパ【kaypa】

折る〔複〕。

## カイペ【kay-pe】

波。

## カウカウ【kaw-kaw】

あられ, ひょう。カウカウ アシ=あられが降る。

## カウレ【kawre】

乾いている, 乾燥している。イナウ アナクネ オツカヨ ウタラ ケ ヲ ネルウエ ネ ピリカ イナウ ア・ケ ヒ アナクネ イナウネニ エイタサ ソモ ア・サツケ カウレ カシパ ヤツカ リカン カシパ ヤツカ ウエン ベナ。エラムオカ ヤン アニー=イナウというものは男たちが削るもので, 美しいイナウを削る

のにはイナウを削る材料をあまり乾かしすぎないこと、乾かしすぎても湿りすぎても悪いものだ。覚えておいてね。アマム **カウレ** コロイユタ・アン ヤッカ ア・エニタン コカリカン コロ オラーノ コネ ワ イサム ベネ=穀物が乾燥していると搗き物をしてもしやすいけれども、乾燥不足だと砕けてしまうものだよ。ホシキヌマン ク・キヨリヨ アブピッカ ノ **カウレ** クス ク・イウォセ ナエン・カスイ=一昨日、私は火棚の上へ物に乗せたがよく乾いているので、それを舂にするから私を手伝え。

\*主としてヒエ粒、アワ粒、イナキビの粒などの乾燥具合を試す時に使う言葉。歯で噛んでみてぱりっとな音がすると、カウレ=乾いている、音がしないと、リカン=乾燥不足である。

### カエカ【ka-eka】

糸撚り（をする）。フチ シネンネ アペサム タ ア ワ アン ホノイ シノッチャキ コロ **カエカ** コロ アン=おばあさんはひとりで火の側で座っていてかすかな声で歌を歌いながら糸を撚っていた。



[カエカ]

### カエドゥシ【ka-etupsi】

糸端。

### カーカ【ka ka】

それも。オルケシサツペ アン コロ オラーノ ウケシコロ シコロ ネ ワ ネンカ ア・アラパレ ヲ ネ コロカ **カーカ** アシトマイ コマウコウエン ヒーカ アン ベ ネ クス エタ ヲカ イキ ソモ アン ペ ネ=子孫が絶えた

者がいるとそれから相続すると言っては誰かが身内を行かせるがそれも恐ろしいものだ、巻き添えを食うこともあるものなのでやみくもにそうするものではない。

### カカウ／カカウエ（へ）

【kakaw/kakawe (he)】

氷頭（ひず）：サケの頭の部分の軟骨。

### カカラ【ka-kar】

紡ぐ。

### カキ【kaki】

雪囲い、垣、垣根。クポニタ（ク・ポン ヒタ） シリチュク コロ クヌフ（ク・ウヌフ） ドラノ モセ・アシ チセ オカーリ **カキ** チ・カラ ベ ネ ア ヒ ケシカルン（ク・エシカルン）=私が小さい時、秋になると母と一緒に茅を刈って、家の周囲に雪囲いを作ったことを思い出す。

### カッセ【kak-se】

咳払い（をする）。

### カッセカッセ【kakse-kakse】

咳払い（する）。テエータ フチ ウタラ エネ ハウエオカ ヒ ネンカ **カッセカッセ** ハウエ オバ コロ ソンノ エアシリ ウエンシサム カッセ シリ ネーノ シコロ ハウエオカ パ ヒ ク・ヌ=ずうっと昔、おばあさんたちが言った言葉は、誰かが咳払いをしたのを聞いたら本当に全く悪い和人が咳払いしているみたいだ、と言うのを私は聞いたものだ。

### カケンチャ【kakenca】

かけ竿、間じきり（竿に着物やござを掛けて間じきりにする）。ウエペケレ オクタ（オロタ） アナッネ アテケカラベ **カケンチャ** レウエウセ カネ ア・アツチ シコロ ア・イエ ヲ ネ=昔話の中では刺繍した物がかけ竿がたわむほどに掛けてある、と描写されているものだ。

### カサ【kasa】

笠。カサランドペビ=笠を縛る紐の端。

### カサイエッ【ka-saye-p】

糸巻き。

▷カ=糸 サイエ=巻く ヲ=もの

### カシ【kasi】

～の上。

### カシ【kas】

仮小屋。

### カシウン【kasi un】

その上、その挙げ句、シッドイマ **カシウン** エ・シケ パセ ナ シニ ランケ アラパア

## シ

## シ【si】

糞、大便。オシオウン=糞詰まり、オシクシ  
シ=大便をする。シ エ ワ アン=糞でもく  
らっている（これは悪口だがあまり悪意は感  
じられないもの）。→オソマ

## シ【si】

本当に、まったく、最も、ぐっと。

## シ【si】

子供。

## シ【si】

自分（で）、自ら。シ ヘコテ=自分の方へ。

## シ【si】

それ（を）、～の。

## シアスルアシテ【si-asur-aste】

有名になる。

▷シ=自ら アスル=噂 アッテ=立てる

\*よからぬ噂を立てた場合は蔑みの意味をこ  
められることがあるので注意。

## シアッカ【si-apka】

大きい雄鹿。

## シアペケシ【si-ape-kes】

太い燃えさし。

▷シ=太い、本当の アペケシ=燃えさし

シアペケシ ア・テッサイカレ シネレ ワ エ  
ク チロンヌア・トイコキクキ ア・ライ  
ケルウェ ネ=太い燃えさし、さっと手に  
取って、化けて来た狐を殴りつけて殺したの  
だ（ウエペケレの一節『ひとつぶのサッチ  
ポロ』90頁 平凡社）。

## シアペバスイ【si-ape-pasuy】

太い火箸。シアペバスイ テッサイカレ イ  
カエウシエウシ=太い火箸を手にとって私を  
殴った [ウ]。

## シアمام【si-amam】

米、白米。

## シアリキキ【si-arikiki】

本当によく働く。

## シアンノ【si-ar-no】

全く、まことに、本当に、そっだよ。

## シイエエ【siyeye】

病気（になる）。

## シエキマテッカ【si-e-kimatek-ka】

おどす、さあどうしてくれる返事をしろ。

## シエタイエ【si-etaye】

引っこむ。

## シウエンテ【si-wen-te】

足が遅い、歩くのが遅い、のろい。ソノノ  
オハシリウン ワ アン ヤッカ ピリカ ヲチ  
シ コロ ボカ ウン・ケサンパ ヲ オラーノ  
シウエンテ。ホクレ エク=本当に留守番を  
していてもいいものを、泣きながら後を追  
かけてから、足が遅い。早く来い。

\*母にそう言われながら母方の実家まで片道  
16 kmの道のりを門別村山門別へ行ったも  
のだ。

## シウコカラカリ【si-u-ko-karakari】

丸くなる。

## シエタイエ【si-etaye】

引っこむ。

## シエドウイナ【si-etu-uyna】

自分の鼻を押さえる：驚きのあまり鼻の穴か  
ら魂が飛び出さないように両方の手で鼻を  
押さえるしぐさ。



[シエドウイナ]

## シエトコアソンコクシテ

【si-etoko a=sonko-kuste】

前もって知らせる。

## シエパシクル【si-e-paskur】

ハシブトガラス。

## シエミナヤラベ【si-e-mina-yar-pe】

道化者。

## シエランポクウェンテ

【si-e-ram-pok-wen-te】

憐れみを乞う。

## シオアウエンルイ【si-oar-wen-ruy】

全く悪い、全くよい：前後の言葉によって善  
と悪の両極端に使い分けられる。タネ アン  
ピリカ シオアウエンルイ=（今までの美  
しさ）それに増して今日の美しさ。

## シオカウン【si-oka un】

自分の後ろの方へ。

▷シ=自分 オカ=後ろ ウン=～へ

## シオカエボタラ【si-oka-epotara】

留守を案ずる。

▷シ=自分 オカ=後 エポタラ=案ずる、  
 気づかう  
 タネポヘカッタラ パテッ ネ ワ コハシリウ  
 ンテ (ク・オハシリウンテ) ヲネ クス エ  
 アッキンネ ク・シオカエポタラ コロ ケッ  
 (ク・エッ) ヒ ウン=今初めて子供だけで  
 留守番をさせたのでとっても留守を案じな  
 がら私は来たのよ。

### シオクヌレ【si-okunnure】

いばる。

### シオシマケヘ【si-osmakehe】

自分の後ろ。

### シオチャ【si-o-ca】

おかつばに髪を切る。

▷シ=自分 オ=それ (=髪)の毛 チャ=  
 切る  
 クポニタ (ク・ボン ヒ タ) アナッネ フチ  
 ウタラ カレキヒ レス ワ アン エカシ ウ  
 タラ カ オビッタ シオチャ ワ オカ ヲネ  
 ア コロカ タネ アナッネ ネノアン プリ カ  
 オアラ イサム=私が子供の頃 (昭和10  
 年)は、おばあさんたちも、ひげをのばし  
 ているおじいさんたちも、おかつばに髪を  
 切っていたものであったが、今はその風習も  
 すっかりなくなった。

### シオン【sion】

子供：かわいがって呼ぶ言葉。←シオン

### シオンピヤラ【sionpiyar】

未亡人、寡婦、女やもめ。ウネノ シオンピ  
 ヤラ ネ ヲネ クス ウドヤシカラッ パ ワ  
 ネ ノイネ ウトクイエコロ パ=同じように  
 後家(未亡人)なので同情しあうらしく仲が  
 いい。

### シカイ/シカイエ (へ)

【sikay/sikaye(he)】

目釘、釘：竹などを用いる。

### シカイエカイエ【si-kaye-kaye】

稲妻の形、稲光のように屈曲した模様。

▷シ=自ら カイエカイエ=折れ折れする

### シカエシナヤラ【si-ka-esina-yar】

自分の秘密を他に漏らさないように頼む。

▷シ=自ら エシナ=隠す ヤラ=させる

### シカオピューキヤラ【sika opiwki-yar】

助けを求める。

### シカスイレ【si-kasuy-re】

手伝わせる。

### シカベクッテ【si-ka-pe-kuste】

自分の悪事を隠す。

▷シ=自ら カ=上 ペ=水 クッテ=通ら  
 せる→自分の体の上に水を流しているかのよ  
 うに隠れている。

### シカリ【si-kari】

まるい (円, 球), まるくなる。タヌ克蘭  
 ワノ アシッチュッア・ヌカラ。タン チュッ  
 シカリ ラボク ク・ホタヌヌ=今夜から三日  
 月が見えた, この月がまるくなる頃私はお産  
 をする。

### シカリカリ【si-kari-kari】

ぐるぐる回る。

### シカリチュッ【sikari-cup】

満月。

▷シカリ=丸い チュッ=月

### シカリンパ【si-karimpa】

まるい：円形, 回る。

### シカント【si-kanto】

天空。

### シカントコトコ【si-kanto-kotor】

宇宙。

### シカンナッキ【<si-ka-nanu-atki】

①回る：猫の尾に紐をつけるとぐるぐる回る,  
 その様子をいう。

②まるい：円, 球。

### シカンナッキレ【<si-ka-nanu-atki-re】

回す。

### シキ【siki】

オニガヤ。

### シキウタチュッ【si-ki-uta-cup】

4月。

### シキサキサ【si-kisa-kisa】

身ぶるいする：犬などが川を泳いで渡った後,  
 体をふって水を切ること。

### シキッテッテッ【<si-kiru-tek-tek】

身を翻す。

▷シ=自ら キル=向ける, 動かす テッ

テッ=さっと, 急に←シキルテッ

### シキテ【si-kite】

牙。

### シキナ【si-kina】

ガマ〔植〕。

▷シ=本当 キナ=草

カニ アナッネ オルケシサクベク・ネ クス  
 シキナ ピイエヘ ケトイタ (ク・エトイタ)

シリ ネ ナ シコロ ハワナン (ハワン・ア  
 アン) コロ タッ スド オイカ ア・チャラパ  
 ヲネ=私は子孫の絶えた者なのでガマ草の  
 種を蒔くのだよ, と言いながら肩越しに後ろ